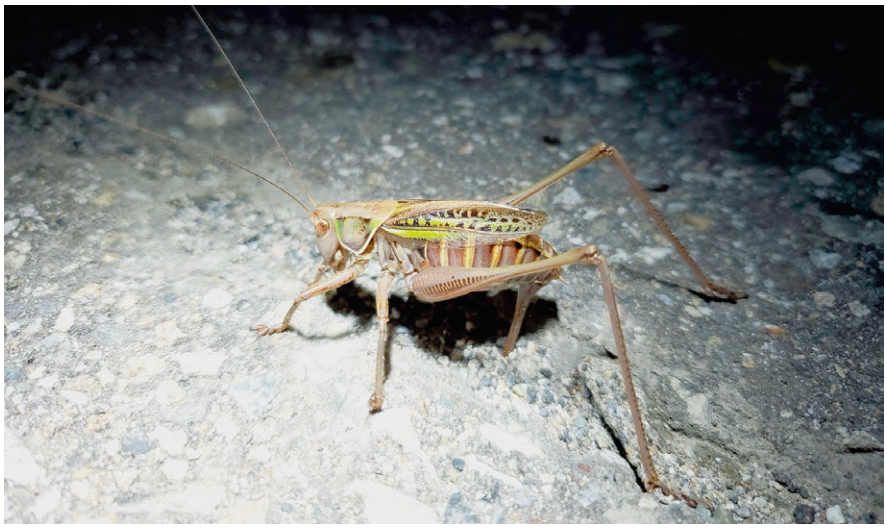
只見町ブナセンター
TEL 0241(72)8355

（写真・文 吉岡義雄）

昆虫の越冬 ―キリギリスの卵休眠―



▲ 地中に産卵するキリギリス。只見での産卵は７～８月に多い

日本で四季があるように、地球上の多くの地域において、周期的な環境の変化が繰り返されています。その中には、酷暑や極寒、餌の枯渇や干ばつなど、昆虫の生存が極めて難しい期間が存在します。このような期間の到来にあわせ、多くの昆虫は、あえて発育を停止します。これを休眠といい、休眠している間は極端な高温や低温、飢餓などに強くなります。休眠が解除されることで発育を再開しますが、休眠によって越冬する昆虫では、越冬の経験が休眠解除の条件であることが一般的です。

今回の主役であるキリギリスは、卵で休眠し、冬を越します。興味深いことに全ての卵が１度の越冬で孵化するわけではなく、２年後もしくはそれ以上の期間、孵化しない卵も存在します。また、それぞれのメスが１年で孵化する卵（１年卵）と孵化に２年以上要する卵を産み分けます。

それにしてもキリギリスはなぜ、このような産み分けをするのでしょうか？ 気温などの環境条件は年ごとに違います。キリギリスは寒さに弱く、異常な冷夏であった年には、産卵前に死んでしまうものが多くなります。そのため、全ての卵が産卵の翌春に孵化した場合、こうした年に全滅してしまう可能性があります。しかし、孵化までの年数が異なる卵を産み分けることで、全滅を回避することができます。つまりキリギリスは、越冬だけでなく生存に適さない年への保険にも休眠を利用しているのです。

只見町ブナセンターからのお知らせ

「ただみ・ブナと川のミュージアム」では下記企画展を開催中です。
皆様のお越しをお待ちしております。

企画展「自然素材を活かす技
～木地、編み組、草木染めと伝承産品の魅力～」

会　期：２０２２年１０月２９日(土)～２０２３年３月２７日(月)
場　所：ただみ・ブナと川のミュージアム　２階ギャラリー

※この広報紙は再生紙を使用しています
VEGETABLE OIL INK
※環境にやさしい大豆油インキを使用しています

■ 発行／只見町　〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下2591-30
■ 編集／総務課総務係　https://www.town.tadami.lg.jp/　☎ 0241(82)5210